



春のおとずれ

聖書のことば

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。
しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。(聖書 ヨハネの福音書12章24節)

～ 新たな1年のはじまりです。～

ゼネラルマネージャー 甲 斐 さち子

一筋の風が春の匂いを運んできてくれる季節、目に入る色々は、可憐であり又新緑の美しさに、しばし足を止め、春を身体いっぱい詰めていきます。

昨年一年は、コロナで始まりコロナに翻弄されながら不安を抱えたまま、緊張感の中で終わりました。

私自身、今までとは違った緊張感と責任の重圧に気の引き締まる思いで新たな年度を迎えました。

何ら変化のない平穏な日々が、いかに安心で安楽なものかを今更のように感じているのは私だけでいいのではないのでしょうか。

世界中が、日本中が、この宮崎がそしてこの制度が、幾度となく進化しながら現代を迎える中で、私たちの使命は変わらずにいきたいと願うばかりです。

これからどんな世界が待っているのか、コロナはいつ終息するのかわかりませんが、しかし、不安ばかりを考えるのではなく前を向いていきたい。

だからこそ、小さなことから一つずつ



園庭の桜並木

丁寧に、そしてワクワクするような沢山の笑顔の花が咲きみだれる、そんな人生を全うする為に、今日という日を大切にしたいと思います。

ナイチンゲールは、「進歩のない組織でもちこたえたものはない」と言っています。

その為には…昨年から引き続きですが、

① 職員の意識・知識・技術の底上げを図るため、階層別・役割別の研修を実施します。

② 職員間・利用者と職員のコミュニケーション能力を更に図っていきます。

不安だらけの船出ではございますが、これからもどうぞよろしく願いいたします。



花壇の花も綺麗に咲いています。

☆ナイチンゲール名言

「私たちは自分が誉められるためではなく、私たちが選んだこの仕事に名言をもたらし、それを前進させるために心を打ちこんで、事を成し遂げていこうではありませんか」

今年度もよろしくお願ひします

●エデンの園 (障がい者支援施設)

エリア化を1年やってみて

今年度、障がい者施設エデンの園は大きな転換期になりました。4月から障害特性や障害の度合い・年齢・性別とで大きく6エリアに利用者の皆さんを分けてご支援させて頂きました。これまでのエデンの園の入所施設は、大人数の利用者の皆さん職員で見守る支援でしたが、今年度からは、エリア化で少人数の利用者の皆さんを少人数の職員で支援を行いました。大人数の利用者を職員で見ると、特定の利用者に見え、それ以外の皆さんには見えにくく、職員の支援にも限界がありました。しかしながら、エリア化においては職員の数を確保しなければいけませんが、各利用者の皆さんに対し、きめ細やかな支援が出来るという大きなメリットがありました。実際にエリア化をやってみて、利用者の皆さんの日中の過ごし方や動きに少しずつですが変化も出てきて笑顔も多く見られました。本当にやってみて良かったと私自身は感じています。今年度のクリスマス会においては、エリア別にリモートにて利用者の皆さんに参加して頂きました利用者の皆さん、職員一同盛り上がり楽しい会となりました。今年度は、コロナ感染対策で利用者の皆さんには自粛をして頂きました。そのかわりに職員が工夫して、行事やレクレーションを催し参加して頂きました。エリア化はまだまだ不十分ですが利用者の皆さんの当たり前前の生活の実現を目指して支援していきたいと思ひます。



こすもすエリアでの鍋会食

生活支援員 福嶋 一途

●エデンホーム三名 (みらい)

賢太郎さんいらっしゃい。

ホームみらいに2月8日から工藤賢太郎さんが入居されました。工藤さんが入居することを知ったホームみらいの皆さんは大喜びしました。エデンの園施設入所時代共に生活をされていきましたので顔なじみです。新しい場所で寛えることも多いのですが、ホームみらいの利用者が工藤さんに「ごはんですよ。」「次どうぞ」と声をかけ、時には誘導してくれます。入居して2ヶ月が過ぎホームみらいでの生活にも慣れてきたようです。これからホームみらいの皆さんと一緒に楽しく生活できるようにしていきたいと思ひます。

ホームみらい世話人 町田 紀恵



新たな仲間を迎えました！

●エデンの園 ふれあい

ふれあいミニコンサートを開催しました。

春の足音が聞こえ始めた3月5日、エデンの園多目的ホールにてふれあいミニコンサートを開催しました。新年を迎えた1月から少しずつ準備を進め、SKBのメンバーの皆さんはプログラムの演奏曲を練習され、その他の皆さんは貼り絵などコンサートを盛り上げる装飾物を製作されました。新型コロナウイルスの影響で規模を縮小しての開催でしたがエデンの園のご利用者の方々も見に来られ楽しく、そして盛大なコンサートとなりました。

今年度のご利用者の皆さんと共に歩み楽しくそして活気のある生活を支えていければと感じました。これからも、エデンの園ふれあいを宜しくお願ひ致します。

エデンの園ふれあい サービス管理責任者 谷口 博孝



コンサート成功！

(それぞれの事業所からのご挨拶)

●就労継続支援B型事業所 つむぎ



演芸作業の様子

3月なり、つむぎでも春を感じる作業が始まりました。2年前から綾町にある綾園芸様でこの時期(3~4月)限定のランタンキュラスの摘蕾を行っています。きれいな花を摘み取る作業ですのでなんとなく罪の意識を感じていたようですが、今では球根を育てる作業だと理解され、春の訪れを感じながら日々楽しく作業されています。

摘蕾とは、蕾のうちの花を摘み取って、開花する花数を減らす剪定作業の1つで株の生長を優先する目的で花を咲かせるよりも、全ての蕾を摘み取る作業です。

就労支援B型事業所つむぎ サブリーダー 大山 貴司

●麦わらぼうし (放課後デイサービス)

今年度の麦わらぼうしと来年度に向けて

昨年度はコロナウイルス感染症の影響で様々な行事や活動が中止又は縮小という形になりました。それでも子供達は変わらずに元気一杯な様子が幾度となく見られました。

昨年度、麦わらぼうしを卒業する児童も何名かおり、寂しい気持ちになりますが、4月には、新1年生が仲間になります。今年度はコロナウイルスが落ち着く事を祈り、子ども達の笑顔を一瞥見たいと職員一同感じているところです。

麦わらぼうし 児童指導員 星崎 悠成



豆まきを行いました。

●エデンホーム森永

今年度も宜しくお願いします。

今も尚コロナウイルスで日々苦しい思いをしている中、エデンホーム森永では、春を感じるために、近場の桜を見たりして、気分転換に繋げています。なかなか思う通りにいかない日々が続いていますが、職員一同試行錯誤しながら、出来る事を日々行って参りました。終わりの見えないこの状況ですが、少しずつ行動範囲も緩和され始め、利用者様の表情も日を重ねるごと良くなってきているところです。昨年度はコロナで始まり・コロナで終わると言った、本当に一年コロナで振り回された一年となりましたが、誰一人発症者が出なかったこと、何より誰一人大きな怪我や病気にかかることなく、元気に一年を過ごせたことは本当に心から良かったと感じているところです。今後ともグループホームの良さという部分を追求しながら、利用者の皆さん一緒になって楽しい日々が過ごすことができるように尽力できればと考えております。今年度も宜しくお願いいたします。

エデンホーム森永 サブリーダー 保利 翼



公園散策です。(ほのか)



近所の公園にてお花見です。(青い鳥)

アート作品 コーナー

今回はエデンの園の皆さんが作った春の
アート作品を紹介します。どの作品も個性豊
かで春の訪れを感じさせるものばかりです。
どこか、心がほっこりいたしますよ～。



飾り雛



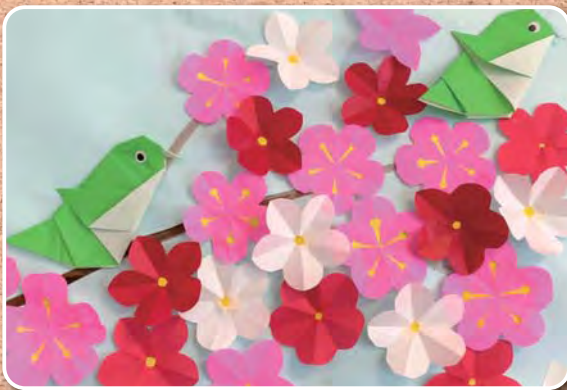
はながみの桜



貼り絵のエデンの園



貼り絵の桜



梅とウグイス



折り紙の桜

相談支援の窓から ～その12～

相談支援専門員 渡部 強士

新年度が始まりましたが、環境は変わりましたか？また、その環境に慣れましたか？さて、春は出会いの季節と同時に別れの季節でもあります。そして、別れることになったのは、自分が選択した結果という場合もあります。例えば、進学や就職等に由来するものです。そのような選択は大きな選択ですが、私たちは、日常生活において、様々な選択の機会に遭遇します。毎日の生活の中で選択することがないという人はいないのではないのでしょうか。対して、障がい者の方々はどうか？十分な説明を受けた上で、きちんと選択の機会が設けられているのでしょうか？選択の機会が設けられていたとしても、本心が選択に反映されているのでしょうか？と言うのも、「どっちでもいい。」と言う方や「〇〇さんがいい方がいい。」と言われる方もいるからです。

一つには、それまで選択の機会が少なかったから選択することに慣れていないということがあるかもしれません。他方では、今まで自分の意見が通らなかったために、意思を表出しなくなったということもあるかもしれません。人材育成の場でもよく言われることですが、『心理的安全性』というものがあります。意見を言っても大丈夫だということが保証されていないのに、どうして意見を言ってもらうことができるのでしょうか？ましてや、相談してもらえようような関係性を築けるのでしょうか？「何でも話して。」と言っておきながら、話を聞く時に、眉間に皺を寄せたり、尋問的になったり、意見を押し付けたりといった高圧的な態度になっていないのでしょうか。もしかしたら、そのような態度が原因で、その方が行動できなくなってしまう場合もあるかもしれません。無意識のうちそのような態度をとっている場合があるかもしれませんので、自分の行動を振り返ってみる必要があります。また、そのような態度をとってなくても、過去の経験から意見を言わなくなった場合もあるかもしれません。

権利擁護研修では、『愚行権』という言葉を習うことがあります。これは、正しくない行動も認められる権利です。私たちも食べ過ぎや飲みすぎ、夜更かし等をするところがあると思います。障がい者だから、規則正しい生活を送らなければいけない訳ではありません。これも一つのノーマライゼーションではないでしょうか。もし、自分がそれを認めていないとしたら、どうしてそのような感情になるのか考えてみる必要があると思います。

最後になりますが、自己選択・自己決定を行ってもらい、意思を表示してもらうためには、意見を尊重する環境を作る必要があるのではないのでしょうか。それが、多様性が認められる社会に繋がり、過ごしやすい世の中になっていくのではないかと思います。私もそのことを念頭に仕事を行っていきたいと思います。

土曜学校メッセージ

金垣基牧師（宮崎めぐみ教会）、印慶子牧師（宮崎柳丸キリスト教会）
海老原直宏（宮崎北聖書キリスト教会）、山口英希牧師（宮崎清水町教会）
荒平大輔牧師（宮崎北聖書キリスト教会）

寄贈品・寄附金・ボランティアありがとうございます。（1月～3月）

エデン園家族会様、宮崎清水町教会様、横山時義様、湯地ひろ子様、中澤様、
都城音訳・点訳友の会様、宮王丸郵便局様、片地フサ子様、中村設備様、綾グリーンハート様

編集 後記

桜が咲き風に吹かれて春の訪れを告げた日々もいつしか過ぎ去り、若葉が芽吹く季節がだんだんと近付つつあります。いまだ落ち着かない状況が続いていますが職員、利用者ともに健康面に配慮しながら過ごしていければと思います。新年度を迎え社会福祉法人エデンの園にも新たに入職した職員もいます。樹齢100年の巨木のように若葉を永年者が幹のように支え、よりよい生活支援ができるよう利用者の皆さん・ご家族の皆さんと一步一步前に進めていければと感じるこの頃です。今年度も何卒宜しくお願い致します。 エデンの園 ふれあい 谷口博孝